

東京社保協

ニュース

東京社会保険推進協議会

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10

東京労働会館 6F

TEL03-5395-3165 FAX03-5946-6823

東京社保協



国民健康保険料の引き下げ と負担軽減を求め 特別区長会と懇談



2025年1月31日、東京社保協は特別区長会事務局と国民健康保険料の引き下げと負担軽減を求めて懇談を行いました。

懇談では、物価高騰により生活が苦しくなるなか、特に「均等割保険料」の負担軽減や、子ども（18歳未満）への均等割りの免除を求めました。また、高額な国保料が原因で医療を受けられず命を落とす事例があることなどを訴えました。

特別区長会事務局は、懇談の内容を全区長へ伝えるとともに、特別区長会としても国に対して均等割りの負担軽減については訴えていることが報告されました。特別区独自の軽減策には財源の確保とともに独自にやることは困難であり、今後、国や東京都に対し、さらなる財政支援を求める働きかけが求めていることが報告されました。

来年度の特別区の国保料の値下げの方向についても報告されました。



介護人材確保と 介護事業書の支援のため 実効性のある施策を 東京都議会各会派へ要請 介護をよくする東京の会

2025年2月18日、「介護をよくする東京の会」は東京都議会の各会派に対し、介護人材の確保と介護事業所の支援を求める要請を行いました。

東京都内では、介護サービスの求人倍率が常勤で8.30倍、パートで10.42倍と人材不足が深刻化し、2030年度には約47,000人の介護職員が不足すると予測されているなか、都の独自の支援策として介護職員への「居住支援特別手当」が始まったものの、支給額や対象が狭く制度の拡充が求められていることを訴えました。

また、訪問介護事業所の基本報酬引き下げにより、小規模事業所の廃業が相次ぐ懸念が指摘されており、都独自の財政支援を求める声が強まっている。世田谷区のような補助制度を都全体に拡大すべきではないかと意見交換を行いました。

直接議員が対応していただいた会派は共産党だけでしたが、代表質問などでも取り上げてるといった力強い言葉をいただきました。



各地のニュース

年金学習会 年金制度の問題点と 高齢者の要求

町田社保協

日時：2025年4月26日13：30～15：00
場所：町田教育会館 2F
講師：全日本年金者組合 木田保男書記長

政府は公的年金制度を「賦課方式」としていますが、実際には年金積立金も存在し、2024年3月末時点で300兆円以上に達しています。賦課方式は、現役世代が納めた保険料をそのまま高齢者の年金給付に充てる仕組みですが、積立金は将来の給付財源としてGPIF（年金積立金管理運用独立行政法人）が運用しています。

この積立金は、少子高齢化による財源不足を補う目的で活用されるとされていますが、現在のところ本格的な取り崩しは行われていません。2024年度の「年金検証」では、基礎年金の「マクロ経済スライド」をいつまで継続するかの判断が先送りされる見通しです。今後、積立金の具体的な活用方針がどのように決まるかが注目されます。

原告とともに頑張ろう！ 1.28交流決起集会

都生連

東京高裁管内の弁護団、原告の訴えがあり、運動の交流などが行われました。



ロビンソンって知ってる？ 社保協幹事会で学習会 西多摩社保協

フリースペース「ロビンソン」は子どもの権利条約を柱に、不登校の子どもたちが安心して居られることを目的とした居場所です。

「不登校の子たちの居場所が欲しい」と、当時の親子の活動で始まりました。その子どもたちが巣立った後も「親の会」として活動しようと継続、20数年に及んでいます。

2011年9月、映画「アンダンテ」上映会をきっかけに西多摩の会が発足しました。「不登校やひきこもりなど、生きづらさを抱える人たちへの理解を広げたい」、「一人ぼっちで悩んでいる人をなくしたい」、西多摩の様々な人に支えられて、つながりを大事にと前身である「登校拒否・不登校を考える西多摩の会」をつくりました。

2021年、不登校の子どもたちの居場所の現在の形で開始しました。青梅市で市民提案共同事業として採択されたが、コロナ禍もありできないと言われたりしましたが、「外でもいいからやろう」と継続し、2022年に法人格を取得しました。

2024年度4月、新しい学年で新しいクラスが始まったのに、担任が不在という「欠員状態」は、都内で20名という状況からスタートしました。欠員状態は改善されず、病休者の広がりや産休・育休をとられる方も加わり、この「欠員状態」は9月には、全都で80人に広がりました。3学期には、この未配置状態はますます深刻になることが予想されます。教職員のなり手が少なく、また労働の負担の重さから病休者が増えていく現状は、すぐに改善するのが難しい事実です。

教職員がもっと働きやすい職場になり、教師を希望する人が増える魅力ある職にするためには、教育予算の充実はぜひ必要です。なにより、子どもたちの健全な成長のために、一学級の規模は35人学級にとどまらない、より少人数の学級が求められます。

超過密化の西東京市の 学童クラブ待機児童も！ 西東京社保協

西東京市の学童クラブは36ヶ所あり、そのうちの半数の18ヶ所が定員150%を超えている超過密状態にあります。中には定員の200%近い超過密の学童クラブもあります。待機児童は73名もいます。(令和5年度)市は学童クラブの増設は学校の建て替えの際に行うとしていますが今後10年間で建て替え予定の小学校は保谷小、第一小、芝久保小の3校のみです。

定員の200%を超えている田無柳沢学童クラブは来年度の柳沢小の学校施設内に学童クラブを増築する予定になつていますが、保谷小学校は校内の教室を放課後に利用、東小学校は校内に余裕教室がないのでおとなりの明保中学校を借りて学童クラブを増設しました。(中略)

どの子ども落ち着いたスペースで放課後をごせるような施設環境は行政としてまず第一に整備しなければならない基本中の基本です。学童クラブの整備費は約1億円程度でできます。市は今後、空き教室を使つたタイムシェア事業を行つて行く予定ですが、その空き教室すらない学校もあります。

現在、西東京市には学童クラブを整備する計画すらありません。本物の子どもがど真ん中となるよう計画的な学童クラブの増設が急務です。

ニュースより一部引用

全国代表者会議を開く 中央社保協

2月11日に中央社保協は全国代表者会議を開催しました。

代表委員を務める吉田章東京社保協会長より「近年の政治腐敗や経済格差の実態、マイナ保険証をめぐる国の狙いを厳しく指摘し国民の力を結集し全国民が幸せな日々を送れる国づくりに向けて頑張ろう」と開会挨拶が行われました。

代表者会議の特別アピールとして、「全世代にかかわる高額療養費大改悪の撤回を強く求める」を確認しました。

高額療養費の負担上限引き上げ の白紙撤回を求める要請書

政府が2025年度予算案に盛り込んだ「高額療養費制度の負担上限額引き上げ」の白紙撤回を求め、内閣総理大臣や関係大臣に要請を行うことが中央社保協より提起されました。

高額療養費制度は、がん患者など長期的に高額な治療を必要とする人々にとって不可欠な仕組みであり、上限額の引き上げは1250万人の患者負担増につながると指摘。物価高騰や賃金・年金の停滞が続く中での負担増は「国民のいのちと健康を脅かす」ものとなります。

今回の団体署名ですが、中央社保協・国民大運動実行委員会・安保破棄実行委員会などと連携して行う国会行動と合わせて1回目の提出を行います。

署名は直接持ち込むか東京社保協までお送りください。

■ 中央社保協の提起する国会行動の日程

2025年3月19日(水)13時頃から

衆議院第2議員会館前

(全労連宣伝カーが目印)

団体署名については、東京社保協HP参照

24万筆の思いを国会へ 介護署名提出行動



2月12日に「介護署名」の提出行動を参議院議員会館内の会議室にて行いました。

全国から24万を超える署名が寄せられ、今通常国会へ提出されました。集会には9名の国会議員が駆け付けられました。

介護署名の最終提出は5月27日(火)となっております。署名については東京社保協HPでもダウンロードできます。

